

令和2年度 学校経営計画・学校評価シート

《高知県の教育の基本理念》	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像 ○ 子どもたちが楽しく学べる学校 ○ 保護者が安心して子どもを任せられる学校 ○ 地域にとってなくてはならない存在の学校 ○ 教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき姿の概要に	○「主体的、対話的で深い学び」の視点を生かした、教育実践(MIRAIプロジェクト) ○適切な実態把握を基にした、小・中・高・寄宿舎の連携による、一貫した系統的、組織的な指導実践及び点検評価 ○家庭、地域との連携及び障害者スポーツの推進 ○カリキュラム・マネジメントの視点で、学校全体の構造や取組を評価するシステムの構築
《取組の方向性》	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働 ④生涯学び続ける環境づくり	《目指すべき姿》	小学部：自分のことは自分でやり、みんなと一緒に活動する児童 中学部：個々のもてる力を高め、生活に必要な力を身に付けた生徒 高等部：自らの力を発揮することによって自己実現を図り、社会的自立につながる力を身に付けた生徒 寄宿舎：仲間と共に生きる喜びを共有し生活自立や社会自立ができる力を身に付けた児童生徒	目指すべき姿の概要に	

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
I 専門性の向上	○主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた授業づくり及び授業改善	<現状> ①学習過程分析表が教科学習にも活用できるようになっていない。 ②研究・公開授業の参観体制に課題があり、十分な事後協議が行えていない。 ③教師の専門性の向上のために、外部専門家による指導・助言が引き続き必要である。 <評価指標> ①学習過程分析表を全ての授業に使いやすく改善できたか。 ②授業改善に結びつけることができる仕組みが構築され、実践できたか。 ③外部専門家の指導・助言により、「主体的・対話的で深い学び」の取組の向上が図られたか。	①前年度に寄せられた学習過程分析表に対する意見をもとに、研究部を中心に様式等の見直しを行う。 ②各学部の代表者による研究授業(年間2回)に取り組む。「授業改善チーム」の参観を継続するとともに、授業をビデオ撮りしたものを事後協議に活用し、協議を行う。 ③外部講師(県立大:石山先生)を2回招聘(うち、1回は教育課程研究集会)し、授業改善や取組等について助言をいただいた。 ④外部専門家の招へい…指導・助言、「主体的・対話的で深い学び」の検証を行う。	①深い学びの項目を一部修正して活用中。 ②1回目の研究授業が終了し、縦割りの研究協議を実施できた。 ③全教師が公開授業に取組中。 ④外部講師(県立大:石山先生)を2回招聘(うち、1回は教育課程研究集会)し、授業改善や取組等について助言をいただいた。	①全公開・研究授業者から意見を集約し実践集録に掲載すると同時に、年度末に修正を行う。 ②2回目の研究授業で、どの程度授業改善が進んだのかを確認していく。 ③12月、2月に外部講師(県立大:石山先生)を招聘し、「主体的・対話的で深い学び」の取組に対する助言、まとめをしていただき、授業改善に取り組んでいく。	①学習過程分析表については、校内をはじめ他校からも概ね評価をいただいた。 ②各学部の代表者による研究授業(年間2回)については、外部講師(県立大:石山先生)の助言や研修会をもつことで授業を参観できなかった教師からもアドバイをもらったことで、授業改善が進んだ。 ③外部講師(県立大:石山先生)を年4回招聘し、「主体的・対話的で深い学び」の取組に対する助言、まとめをしていただくことで、課題や改善点が見られたので次年度の授業改善に生かしていく。	・ビデオでの参観は利点も多いと思いますが、生徒個々の反応は分かりにくい部分もあると思う。また、参観期間中の保護者の意見なども知りたい。 ・「主体的な学び」については、学ぶことへの興味や関心をもつこと、見通しをもって粘り強く取り組むこと、自己の活動を振り返って次に活かすことが大切だと思う。 ・アンケート結果から、子どもの肯定的な回答が多く、先生方の教育の工夫や、学校全体としての研究授業の取り組みなど、積極性が感じられる。 ・販売学習の経過説明の中で、生徒の学習に取り組む様子や、販売時のお客さんとのやりとりなどを開かせていただき、先生方の児童生徒に対し、自己肯定感を育むという意識をもって指導に当たっている取り組みが、子どもの変容において効果を上げているものと思う。 ・学習過程分析表について改善できることがあれば、どんどん改善して向上してもらいたい。また、もっと外部講師を招いて改善していければと思う。 ・学習過程分析表の見直しを重ねながら他校からも評価をいただけるほどに完成されて行かれた点や、公開授業など子どもたちに寄り添った授業が行われ、先生方のご苦労が実ったように思われます。今後もかたちにとらわれず寄り添った授業の継続をお願いしたい。	・公開授業の参観、協議体制を考える。 ・「学習過程分析表」を日常的に活用する。 ・指名者による研究授業、全教員による公開授業を継続して行う。 ・成果物である学習指導案、教材・教具を財産として残すため、教材バンクをつくる。
II キャリア教育の推進及び進路指導の充実	○キャリア発達段階に応じた適切な教育の推進及び進路指導の充実	<現状> ①各児童生徒の実態把握のためのキャリア発達段階表及び就労アセスメントシートの活用が不十分である。 ②小・中・高等部と系統性のある年間指導計画(教育内容・学習内容)を構築していく必要がある。 ③児童生徒、保護者が、進路に関する具体的なイメージがもてるように、一層の情報提供が必要である。 ④個に応じた進路先の確保及びアフターケアの充実が必要である。 <評価指標> ①児童生徒のキャリア発達をアセスメントシートを活用し把握し、個に応じたより適切な学習指導が行えたか。 ②系統性のある年間指導計画を策定することができたか。 ③学校評価アンケートで教員の評価が前年度より向上したか。(令和元年度そう思う、ややそう思う70%→令和2年度75%) ④進路学習及び進路に関する情報提供を計画的に、かつ十分に実施することができたか。 ⑤個に応じた進路先の確保及びアフターケアの充実を図ることができたか。	①キャリア発達段階表及び就労アセスメントシートによる実態把握を行い、個の実態・ニーズに応じた学習内容の選定及び個別の指導計画を策定する。 ②各学級で児童生徒に付けた力(キャリア発達)を念頭に置き、より具体的な学習内容を記載した年間指導計画を作成し、指導・支援に取り組む。 ③②個別の指導計画、年間指導計画については、作成時、評価時には各クラスで十分に協議し、次年度担任に引き継ぐ。 ④進路学習会(高等部:14回/年)、進路研修会(保護者)、「進路の手引き」、「進路だより」の発行、事業所見学(高等部)に取り組む。 ⑤就職アドバイザーと連携して実習・進路先を開拓(新規10件)するとともに、アフターケアの充実に取り組む。	①個の実態や特性に応じた指導計画は作成済み。 ②年間指導計画を作成し、取組中。 ③作成時に協議、確認済み。また、評価を2期制とすることで評価、今後の取組内容について十分時間を取り、確認することができた。 ④進路学習会は現在11回実施、「進路の手引き」は当初計画より遅れたが配布済み。「進路だより」は当初計画より遅れたが配布済み。「進路だより」は当初計画より遅れたが配布済み。事業所見学未実施。 ⑤実習・進路先開拓は計画的に取り組んでいる。現在、一般6件、福祉事業所2件を新規開拓済み。アフターケアは約200件に対応済み。	①作成した指導計画の検証と第2期に向けた指導・支援の確認。 キャリア発達段階表、就労アセスメントシートに基づいた指導・支援の実施。 ①②第1期の評価、第2期への課題に対する確認。 ③進路学習会は引き続き計画的に取り組んでいく。進路研修会は1月末、事業所見学は2月初旬に実施予定で調整中。「進路だより」は継続して定期的に発行予定。 ④実習・進路先開拓は継続して取り組んでいく。アフターケアは関係機関と連携しながら継続して取り組んでいく。	①②2期導入初年度であったが、児童生徒ごとの学習活動につながることで、キャリア発達段階表、就労アセスメントシートは担任を中心にチェックし、実態把握、指導計画策定に活用した。 ③進路学習会は14回実施できた。現場実習の事前・事後学習等を中心に取り組む、生徒にとってより具体的なイメージをもって進路獲得に向けて取り組むことができた。「進路の手引き」は今後も教職員向けに配布し活用したい。保護者の進路研修は取り組み始めたが、進路だよりを発行し、様々な情報提供ができた。事業所見学は、高1対象で、一般企業(1)、福祉事業所(2)、グループホーム(2)で実施し、今後の現場実習等の取組に対して具体的にイメージをもつことができるように取り組んでいる。 ④アフターケアは、250件以上行い、家庭、事業所や関係機関と連携し、卒業生のケアにあたることができた。 ⑤高3の進路先はほとんどの生徒が進路先決定。未定の生徒については現在実習中。	・懇談等で将来のために身に付けておいた方がよい行動。(就労に直接つながらなくても、職場等で理解が得られやすい振舞いなど)を指摘されることがあり、家庭内でも大変役に立っている。 ・学校全体を見ていく姿勢を各教員ももつこと。(自分の担当分野だけでなく、カリキュラムと連動して行えるのか、学校の一員としてトップダウンだけでなく、ボトムアップで提案もできるか) ・小中高と情報を一元化して、次年度の引継ぎをしっかりとてくれるのは、保護者としてはありがたいです。 ・学部を越えた研究授業への参加など、良い取組だと思います。ただ、保護者のアンケート回答で気になる回答があります。どうして保護者の方が「そう思う」の欄に下げていることも必要ではないかと思えます。 ・アフターケアに関して、相談したい時の窓口を知らせてほしい。 ・小学部、中学部、高等部それぞれのキャリア発達段階表に基づき、各学部での指導及び個別の指導計画を策定し、次の学部へ引き継いでいくことを通して、児童生徒がそれぞれの時期にふさわしい学習が積み上げられていると思う。 ・児童生徒一人ひとりに合わせたキャリア教育はとても大変だと思うが、もっとこまめにやっていたらいいと思う。 ・アセスメントシート、実態把握、指導計画は、子どもたちの発達も個人で違っているから、作成も大変だったことだろう。モニタリングも重ねながら子どもの記録が残ること卒業後の企業や事業所での対応に役立っていると思う。	・キャリア発達段階表と就労アセスメントシート(B型アセスメント)の活用の促進 ・実態、個のニーズを基に、将来の生活に必要な学習内容を選定し、個別の指導計画を立案する。 ・小学部、中学部、高等部、寄宿舎の連携を強化し、系統性のある一貫した教育内容・学習内容を年間計画として立案する。 ・早期からの進路指導、情報提供(進路だより等)の発信
III 学校設定項目	○スポーツに関する興味・関心を高め、将来の余暇活動(生涯スポーツ)の取組の推進	<現状> ○将来の余暇活動としての各種スポーツ(障害者スポーツ等)への取組や参加が学校内だけでしかできていない。 <評価指標> ①体育の授業に、障害者スポーツの競技種目を積極的に取り入れ、小・中・高等部と系統性のある学習計画を設定する。 ②休日等に地域の総合型スポーツクラブ等を利用することができたか。 ③多くの生徒が、各種スポーツ大会へ参加できたか。	①全ての学部において、体育の授業に、障害者スポーツ等の競技種目を取り入れ、実態や年齢に応じた内容を工夫した授業は実施できた。 ②スポーツフェスティバルを令和3年2月に計画した。 ③感染症の影響で、年度の前半は多くのスポーツ大会が中止となり参加することができていない。	①障害者スポーツに特化した授業はできていないが、実態や年齢に応じた内容と関連付けていく。 ②地域でのスポーツイベントをスポーツクラブとの連携を図り、2月に実施する。保護者への参加における協力を呼びかけ、20組以上の家族の参加を目指す。 ③今後開催される大会には参加していく体制を整える。	①障害者スポーツから生涯スポーツにつながる種目を実施する。あわせてパラリンピックと関連付けていく。 ②地域でのスポーツイベントをスポーツクラブとの連携を図り、2月に実施する。保護者への参加における協力を呼びかけ、20組以上の家族の参加を目指す。 ③今後開催される大会には参加していく体制を整える。	①一部の学部やクラスで障害者スポーツに取り組んだが、生涯スポーツへ結び付きパラリンピックとの関連付けはできていない。 ②地域でのスポーツイベントをスポーツクラブとの連携を図り、2月に実施する予定であったが、感染症対策のため中止となった。しかしながら、スポーツクラブより用具を借用し、イベントとほぼ同じ内容を校内で行うことができた。 ③各種スポーツ大会への参加については、感染症対策のため県の障害者スポーツ大会(一部の競技を除く)やその他のスポーツ大会も中止となり参加できなかった。しかしながら、唯一開催された県のフライングディスク大会へは小学部の児童も参加するなど、すそ野が広がっている。	・コロナ禍で各種イベント、大会が中止となる中、校内での実施は参加の裾野が広がると思う。 ・生涯スポーツという点で、卒業後のスポーツへの参加状況などもデータとして知りたい。 ・障害のある児童生徒の体力づくりに始まり、障害者スポーツとつながって、そして、学校を卒業してからも生涯スポーツとして取り組んでいる卒業生からの便りもいただいている。いろいろなスポーツ大会に参加する機会がもてなかった今年であるが、学校での体育(体つくり)の充実と小学部の児童も楽しくスポーツをするという態度が養われていると思う。 ・今年は十分な取り組みができなかったと思うが、学習だけでなく心身の発達のためにもスポーツは欠かせないものだと思う。 ・今年度は、コロナ感染症もあり感染対策しながらのことで余暇活動を行われたと思う。	・小学部から高等部まで系統性のある体育の学習内容を設定する。 ・地域の総合型スポーツクラブと連携し、在校生、卒業生の余暇支援としてスポーツを推進するを継続する。 ・各種スポーツ大会への参加をする。
働き方改革	○働き方改革の意義を理解し、教職員相互の思いやりと信頼による業務分担・業務遂行	<現状> ①分掌部内や学級内での業務が部長や担任に偏ってしまっている。 ②月45時間以上の長時間勤務者が複数いる。 <評価指標> ①各学部、各分掌部等での業務量の平準化を図ることができたか。 ②長時間勤務者(45時間以上/月)の削減及び(80時間/月)のゼロを維持できたか。	①各学部、各分掌部の業務内容を可視化し、管理職と協議しながら業務内容を整理・削減するとともに、平準化に取り組む。 ①通知表の前後期制、指導要録のデータ化に取り組む。 ②業務記録表の確認及び長時間勤務者(45時間以上/月)に対する声掛けを行っている。 ③夏季休業中に学校閉庁日を設定し、全教職員が一斉に休める日を設ける。	①業務内容の可視化、業務内容の整理・削減はできていない。 ①働き方改革の推進役を選任し、教職員から出された意見等について協議する。 ①県が進めている校務支援システムを活用した通知表・指導要録等の作成についての周知会を開き、これからの業務改善について県レベルと学校レベルでの取組を同時に進めていく。 ②7月に1名の教師が46時間となり、1時間程度の超過があった。 ②学校閉庁日(2日間)を計画校どおりに実施した。出勤者なし。	①業務記録表を活用し、業務内容の可視化と業務内容の見直しを図る。 ①働き方改革の推進役を選任し、教職員から出された意見等について協議する。 ①県が進めている校務支援システムを活用した通知表・指導要録等の作成についての周知会を開き、これからの業務改善について県レベルと学校レベルでの取組を同時に進めていく。 ②グループウェアの勤務状況管理を定期的に確認し、時間外勤務者が多くなっている教職員には声掛けを行っていくとともに、業務の内容を聞き取ることで、平準化を図るよう学級・分掌に投げかけていく。 ②次年度以降も、学校閉庁日を設定していくことを全校(教職員、保護者)で確認していく。	①業務記録表を基に超勤時間の一覧表を作成することで、超勤時間の多い部署、役割を把握した。学部主ことや分掌部長、教科の主指導の超勤時間が多く見られたものの、業務内容の見直しや平準化には至っていない。 ①働き方改革の推進役を選任し、教職員から出された意見等について協議することで、働き方のヒントや意識をもつことができた。 ①県が進めている校務支援システムの周知会については、通知表・指導要録等の作成(システムの構築遅れ)の部分を除き、児童生徒の基礎情報の登録や出席簿等の作成について行うことができたが、システムを使用した研修ができていない課題は残る。 ②時間外勤務が30時間を超えた職員には注意喚起を促すことはできたが、目標数値である45時間を超えた教職員が2名おり、面談を行い業務改善について話をした。 ②次年度以降も、学校閉庁日を設定していく。	・個々の生徒対応は時間が掛かることも多いと思いますが、時間外勤務の軽減を期待する。 ・日高は学校と家庭の距離が近く、生徒一人一人が同じではないので負担は大きい。精神的、体力的に大変だと思う。無理だと思うが、補助的(フリー)な(助手)先生がいれば休みやすくなるのではないだろうか。 ・先生方の評価として「課題が残る」となっているが、かなり改革的な取り組みを実践され、意識の変化や、取り組みの効果が出ていると思う。 ・任すべき仕事、自分がやらなければならない仕事を整理し、職務の遂行に当たる。その中で大切なことは学校全体として学部においても風通しの良い職場づくりが働き方改革にもつながっていくと思う。何のための業務改善か?一人一人が考えをもつことが大事だと思う。 ・学校の先生は業務が多岐、業務の分担化、システム化をしてほしいと思う。 ・どうしても勤務時間では足りないことがあるのは企業でも一緒ですが、管理に余裕があってもいいのではないと思う。 ・ズームでの研修会などに行われたりして時間が足りない状態が今の社会のように思います。	・業務内容の可視化、平準化 ・個々のタイムマネジメント、スケジュール管理 ・風通しのよい職場づくり(協力体制等)